

まきびと カルデアの牧人 ~校長だより~No.30

1 学期を終えて

～過去の自分と現在の自分を比べてみよう できることを増やそう～

2025.7.22 校長

今日で1学期が終わります。1学期のこの4ヶ月を振り返って見ましょう。1年生は戸惑いと不安を抱えていたときに比べて随分と大東高校の生活に慣れて来ましたね。新しい友人関係も広がってきたと思います。2・3年生は学校を引っ張る存在として、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などでよく動いてくれました。気持ちの良い挨拶の習慣は2・3年生が伝統を引き継ぎ、1年生に伝えてくれています。ありがとう。

では次に、皆さん個人を振り返ってみてください。4ヶ月前の自分と現在の自分を比較してみましょう。できるようになったこと、意識するようになったこと、よくなったこと、具体的に考えてみてください。学習、部活動、人との接し方、自身の生活、できることが増えてきましたか。皆さんは何のために学校に通っていますか？ 私はできることを増やすためだと思います。人はとかく周りと比較して自分を見てしまいがちです。他と比較して優劣を決め、できるからと天狗になったり、劣等感を持ったりしますが、肝心なことは、どれだけ自分自身でできることが増えたか（伸びの量）なんです。勉強に限らず、部活動や日々の生活の中での心がけなど、より良い自分を目指してできることを増やす、これが大事だと思います。

特に3年生の皆さんは、この夏の取り組みが進路実現に向けてとても大切であると担任先生を始めとして多くの先生から言われていると思います。勉強してもなかなか結果が出ず、不安になったり、目標を諦めようかと思うかもしれません。このときも周りとの比較でなく過去の自分と比較してみてください。本気で取り組んだのなら夏を越えた先に手応えを感じることを思います。

話は変わりますが、7月13日に本校と淞南高校との野球の大会が江津市であり、応援に行きました。選手の皆さんはよく投げ、よく守りました。結果は残念でしたが、応援に力が入りました。驚いたことは、遠方でありながら一般の方がたくさん応援に駆けつけてくださったことです。応援者の数は淞南高校を大きく上回りとても嬉しかったです。この野球の応援に限らず、会合に参加すると、多くの地域の方から「大東高校を応援しています」と声

をかけられます。私を含め、大東高校の卒業生だから母校を応援する、この気持ちはありがたいです。出身高校にかかわらず広く地域の皆さんから応援される学校になりたいと思いませんか。それには皆さん生徒一人ひとりが応援される人になることが必要です。では、どんな生活を、行動をとれば応援される人になるのでしょうか。

エンジェルスで活躍している菊池雄星投手が花巻東高校時代の話です。花巻東高校の野球部佐々木監督は応援される人、運を掴む人は「言葉、表情、態度、姿勢、身だしなみ、そして感謝と謙虚の心」がしっかりしていると話されています。野球部の指導の中でもこのことを徹底されているそうです。特に菊池選手について、たとえばゴミが落ちているのが目に入ったら「神様が自分を試している」と感じ、行動していたそうです。どんなに主力選手であっても小さいことに気がつき、自分が行動する謙虚さがファンを増やしているのでしょう。ドジャースの大谷翔平選手も花巻東で同じような価値観の環境で過ごしていましたので、海を渡っても愛され応援される2人の選手の基本はここにありそうです。

さて、皆さんにとってこの夏休みを大人になってからも記憶に残る特別な夏休みとしてほしいです。「毎日机に向かって勉強漬けになった夏休み」、「毎日ヘトヘトになるまで部活動に熱中した夏休み」、「インターハイ補助役員として全力で大会に協力した夏休み」、「旅行をして新たな発見をした夏休み」、皆さんにとって高一の夏、高二の夏、高三の夏それぞれ1回きりしかありません。ぜひ、色々なチャンスに首を突っ込み、経験を積んでください。夏休みを終えた時のみなさんが、今と比べて何か一つでも変化し、できたこと、できるようになったことが増えている、または増えるきっかけができたと感じることを願っています。